

ようこそ ピースラウンジへ

～平和の文化をつくらう～

このパネルでは、聖教新聞の連載「私がつくる平和の文化」に掲載された
識者インタビューなどの内容を、抜粋して紹介しています。



長編詩「平和を！平和を！そこに幸福が生まれる」より

平和は
遠くにあるのではない
一人の人を
大切にすることだ
お母さんを
泣かせないことだ
自分と違う人とも
語り合っていくことだ
喧嘩があっても
賢く仲直りすることだ

そしてまた
美しい自然を
護っていくことだ

豊かな文化を
育てていくことだ
人の不幸の上に
自分の幸福を築かないことだ
喜びも苦しみも
皆で分かち合っていくことだ

わが友を幸福にできる人が
幸福の博士なのだ
わが社会を平和にできる人が
平和の天使なのだ

池田大作



平和の文化とは

What Is the Culture of Peace?

国連は1999年に「平和の文化に関する宣言及び行動計画」を採択し、生命の尊重、教育・対話や協力を通じた非暴力の実践、環境の保護、男女の平等や人権に基づいた価値観、態度や振る舞いを「平和の文化」として推進しています。

「平和の文化」は、日々のあらゆる場面で、異なる人や考え方に寛容になり、対話によって理解し、対立を乗り越えていく、連帯を広げていくという、私たち一人一人の生き方の変革から始まります。

「平和の文化」は、国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標、2015年）4.7、および、未来のための協定（2024年）アクション13にも、明記されています。

戦争・暴力の文化	平和の文化
生命・人権の軽視	生命・人権の尊重
敵視・排斥	寛容・多様性の尊重
情報の統制	情報の自由
権力による支配	民主的参加
男女差別	男女の平等
環境破壊・不平等な開発	公正で持続可能な開発
暴力・虐待	非暴力・対話
孤立・分断	連帯・協力
武力紛争	平和・安全

出典：「ユネスコの平和の文化プログラム：序論」より
D.アダムス&M.トゥルー国際平和研究ニュースレター、vol.35, No.1, 1997年3月



人間を信じ抜く

平和の文化を
つくるには

“

(平和を築くために必要なことは) どこまでも **人間を信じ抜く** ことです。

それは出会う人たちに **尊敬を持つ** ことから始まります。

相手に恐怖や不信を抱けば、相手もそれを感じます。(中略)

「平和の文化」とは、**恐れや憎しみを愛に、非寛容を慈悲に、悲観主義を希望に変えていく** ことです。

それが、個人の間人間関係も、さらに社会や政治における関係をも変えていくことになるのです。”



ケビン・クレメンツ (国際平和学者)



相手への理解と共感を

平和の文化を
つくるには

“

「違い」があるということは、自然なことです。

しかし私たちは、時として「違い」にとらわれすぎてしまいます。

そんな時は、

一人一人が持つ人生の「物語」に耳を傾けて みてください。

なぜなら、その人の「物語」を知ることによって、

相手を深く理解し、共感できるようになる

からです。”

サーラ・ワイダー (米エマソン協会元会長)





競争ではなく協力を

平和の文化を
つくるには

“

現代は、学校でも社会でも、人々に競争を強いてばかりいます。

いかに他の人よりも優れているかを競わせ、勝者と敗者を生み出しています。

それでは社会は分断され、不平等になり、差別を生み出していく一方です。

そうではなく、**いかに他の人と協力し、**

仲良く力を合わせて生きるかを教えるべき なのです。”

ベティ・リアドン (平和教育研究者)





子どもが主体者

平和の文化を
つくるには

“

子どもは生まれた時から、家庭の中で、学校や地域で、テレビやネットで、大人の言葉使いや態度から影響を受けて育ちます。

人を傷つけたり人格を否定するような言葉を使わないこと、人に優しく接すること、感謝を言葉にすること、意見が合わない時も話し合って解決することなど、大人の何げない振る舞いの中から、子どもは「平和の文化」の生き方を学んでいくのです。

こうして、**子ども自身が「平和の文化」をつくる主体者**になっていけるのです。”

大谷美紀子（弁護士・元国連子どもの権利委員会委員長）





情報と正しく向き合う

平和の文化を
つくるには

“

今はSNSなどで誰もが情報を発信することができますが、
発信する前には、
自分と反対の立場の人や違った考えを持っている人がいるかもしれない、
この発信で傷つく人がいるかもしれないと想像し、
一呼吸おく冷静さを持ってほしい。

一人一人が情報と正しく向き合うことで、
「対話の文化」ひいては「平和の文化」が
築かれていくと思います。”



国谷裕子 (ジャーナリスト)



対話する勇気を

平和の文化を
つくるには

池田SGI会長の言葉

“一方通行に互いの正義を押しつけるのではなく、相手の身になって考える——そこにこそ「対話の精神」があり、「平和の文化」の基本があります。”

エリース・ボールディング対談 『「平和の文化」の輝く世紀へ』

“今、「非暴力の勇気」「対話する勇気」「聞きたくないことを聞く勇気」「復讐心を抑えて、理性に従う勇気」を発揮すべき時だ。”

『君が世界を変えていく』



多様性の尊重

平和の文化を
つくるには

仏教では「桜梅桃李」といって、

桜や梅などそれぞれの花に美しさや輝きがあるように、人間もまた、

一人一人に違いがあり、自分らしく輝いていける

と教えています。主義・主張も、価値観も違う人々が、

ありのままの姿を通して互いに共感し、友情を結べば、幸福が生まれ、

「平和の文化」が築かれると信じます。



創価学会女性平和委員会



私たちがつくる「平和の文化」

あなたの「平和の文化」のストーリーを聞かせてください

